

豈に仁義の心なからんや。これ其の良心を放なつ所以の者、亦た猶ほ斧斤の木に於けるがごときなり。旦、旦にして之れを伐る。以て美となすべけんや。其の日夜の息する所仁義のめばへは日夜平旦の氣、一夜の安息に煩悶苦惱の邪心を去つて漸く本其の好惡善を好み人と相近きものは幾んど希なり。則ち其の旦晝の爲す所、終日利慾の邪念に之れ枯亡すしばられ之れを枯して反覆すれば則ち其の夜氣の本心のめばえ以て存するに足らず。夜氣以て存するに足らざれば、則ち禽獸を違ること遠からず、人其の禽獸なるを見て以て未だ嘗て才あらずとなすは是れ豈に人の情ならんや。故に苟も其の養を得れば物として長せざるなく、苟も其の養を失へば物として消せざるなし。孔子曰く、操れば則ち存し捨つれば則ち亡し。出入時なく其の郷を知らざることなしと。惟れ心の謂か。

孟子曰く、王齊王の不智をあやしむ無かれ。天下生じ易き物ありと雖も、一日

之れを暴め十日之れを寒かさば、未だ能く生ずるものあらざるなり。吾れ王に見ゆること、いと罕なり。吾れ退けば之れを寒かす者至る。吾れ萌すあるも、これを如何せんや。今、夫れ奕碁の數術たる小數小なり。而かも心を専らにして志を致さざれば則ち得ざるなり。奕秋なるものは通國の奕を善くする者なり。奕秋をして二人に奕を誨へしむ。其の一人は心を専らにし、志を致して惟だ奕秋に之れを聴くことを爲す。一人は之れを聴くと雖も一心に以爲らく、鴻鵠大ありて將に至らんとす。弓いぐるみ矢に絲をつを抜いて之れを射んことを思ふ。之れと俱に學ぶと雖も之れに若かず。是れ其の智の若かざる爲めか。曰く、然るにあらざるなり。

孟子曰く、魚は我が欲する所なり。熊掌、尤も美なり。亦た我が欲する所なり。二者兼ぬることを得べからずんば、魚を捨てて熊掌を取る者なり。生も亦た我が

欲する所なり。義も亦た我が欲する所なり。二者兼ねることを得べからずんば、生を捨てて義を取る者なり。生も亦た我が欲する所なれども、欲する所、生より甚しきものあり。故に苟も得ることを爲さざるなり。死も亦た我が惡む所なれども、惡む所、死より甚しきものあり。故に患も避けざる所あり。もし人の欲する所をして生より甚しきものなからしめば、則ち凡そ以て生を得べきもの何んぞ用ゐざらん。人の惡む所をして、死より甚しきもの莫からしめば、則ち以て患を避くべきもの、何ぞ爲さざらん。

是れに由れば則ち生くとも而も用ゐざるごとあり。是れに由れば則ち以て患を避くべきも而かも爲さざることあり。是の故に欲する所生より甚だしきものあり。惡む所死より甚しきものあり獨り賢者のみ是の心あるに非ざるなり。人皆な之れあり。賢者は能く此の喪ふことなきのみ。

一簞の食、一豆の羹、之れを得れば則ち生き、得ざれば則ち死す。噉爾見下げて呼ぶこととして之れを與ふれば道行く人の賤しきものも受けず。蹴爾足げにかとして之れを與ふれば乞人じきも屑いさぎしとせざるなり。

萬鐘我が五千石以上の大祿は則ち禮義を辨せざるものも之れを受く。萬鐘大祿我れに於て何をか加へん。宮室の美、妻妾の奉、識る所の窮乏の者我れに助け得るが爲めか。

さきには身の死するが爲めにしても而かも受けず。今は宮室の美の爲めに之れを爲す。さきには身の死するが爲めにしても受けず、今は妻妾の奉の爲めに之れを爲す。さきには身の死するが爲めにしても受けず。今は識る所の窮乏の者の我れに得るが爲めに之れを爲す。是れ亦た以て已むべからざるか。これを之れ其の本心を失ふと謂ふ。

孟子曰く、仁は人の心なり。義は人の路なり。其の路を捨てて由らす。其の心を放うて求むることを知らず、哀いかな。人、雞犬を放ふことあらば則ち之れを求むることを知る。心を放ふことありて而かも求むることを知らず。學問の道、他なし、其の放はんとするの心を求むるのみ。

孟子曰く、今、無名の指ゆび 屈して信びざるあり。疾痛、事に害あるにあらざるなり。もし、能く之れを信ぶる者あらば則ち秦楚の路遠く距れも遠しとせざらん。指の人に若かざる人並み が爲めなり。指の人に若かざるは則ち之れを惡むことを知る。心の人に若かざるは則ち惡むことを知らず。此れを之れ類を知らずと謂ふものなり。

孟子曰く、拱把拱は一さかへ。把は一の桐梓名 人 苟も之れを生せんと欲すれば皆な之れを養ふ所以のものを知る。身に至りては之れを養ふ所以のものを知ら

す。豈に身を愛すること、桐梓に若かざらんや。思はざるの甚しきものなり。

孟子曰く、人の身に於けるや、愛する所を兼ねるも大切にする 愛する所を兼ねれば則ち養ふ所を兼ねるなり。尺寸の膚も愛せざるなければ則ち尺寸の膚も養はざるなきなり。其の善、不善を考ふる所以の者、豈に他あらんや。己れに於て之れを取らぬのみ。體に貴賤あり、小大あり、小を以て大を害することなく、賤を以て貴を害することなかれ。其の小を養ふものは小人たり、其の大を養ふものは大人たり。今、場師庭有らんに、其の梧檟材を捨て、其の榘棘木を養はば則ち賤場師たり。庭師となさん。其の一指を養ひて其の肩背を失ひ、而して知らざれば則ち狼疾たわのひと爲さん。飲食の人あるを知らぬ人は則ち人之れを賤しむ。其の小を養ひて以て大を失ふが爲めなり。飲食の人も失ふことあるなくんば則ち口腹豈にたゞ尺寸の膚の爲めのみならんや。

公都子問うて曰く、鈞しく是れ人なり、或は大人となり、或は小人となるは何ぞや。孟子曰く、其の大體即ちに従へば大人となり。其の小體五體に従へば小人となる。曰く鈞しく是れ人なり、或は大體に従ひ、或は小體に従ふは何ぞや。曰く、耳目の官はたは思はず他而して物に蔽はる。物、物に交れば則ち之れを引くのみ。物即ち外物が、物即ち耳目に心の官は則ち思ふ。思へば則ち之れを得、思はざれば則ち得ざるなり。此れ天の我れに與ふる所の者なり。先づ其の大なる者を立つれば心を確つかり立て、おけば則ち其の小なる者、奪ふこと能はざるなり。耳目の爲めに本心を失ふことない。此れ則ち大人たるのみ。

孟子曰く、天爵なる者あり。人爵なるものあり。仁義忠信にして善を樂しみて倦まざるは此れ天爵なり。公卿大夫なるものは此れ人爵なり。古の人は其の天爵を修めて、人爵之れに従ふ。今の人其の天爵を修めて以て人爵を要とむ。既

に人爵を得て、而して其の天爵を棄つるは則ち惑へるの甚しき者なり。終には亦た必ず人爵亡はんのみ。

孟子曰く、貴きを欲するは人の同じき心なり。人人己れに貴きものあり。思はざるのみ。人の貴くする所のものは良貴天然にに非ざるなり。趙孟晉の大夫の貴くする所は趙孟能く之れを賤うす。詩に云はく、既に酔ふに酒を以てし、既に飽くに徳を以てすと。仁義に飽く充足を言ふなり。人人の膏梁の味食を願むはざる所以なり。令聞廣譽身に施く。人の文繡美を願はざる所以なり。

孟子曰く、仁の不仁に勝つや、猶ほ水の火に勝つがごとし。今の仁を爲す者は猶ほ一杯の水を以て一車薪の火を救ふがごときなり。熄まざれば則ち之れを水、火に勝たすと謂ふ。此れ又、不仁に與するの甚しき者なり。亦た終に必ず亡びんのみ。

孟子曰く、五穀は種の美なるものなり。然れども苟も熟せざることを爲さば夷種はいしゆに如かず。夫の仁も亦た之れを熟するに在るのみ。

孟子曰く、羿いの古の弓の名人の人に射を教ふるや。必ずかなら射に志すべし。要術の學ぶ者も亦た必ずかなら射に志すべし。大匠の人に誨ふるや、必ずかなら規矩を以てす。學ぶ者も亦た必ずかなら規矩を以てすべし。

告子章句の下

任人の人屋廬子じんひとのひとおくろし孟子門人に問ふあり。曰く、禮と食といづれか重き。曰く、禮重し、色と禮といづれか重き。曰く、禮重し。曰く、禮を以て食へば則ち飢ゑて死す。禮を以てせずして食へば則ち食を得。必ず禮を以てせんか。親迎しんげいの婚儀すれば則ち妻を得ず。親迎せざれば則ち妻を得。必ず親迎せんか。屋廬子對ふること能はず。明日鄒あすに之ゆ之ゆ、以て孟子に告ぐ。孟子曰く、是に答ふるに於て何かあらん。其の本を揣らずして其の末を齊うせば、方寸の木も岑樓しんろうより高からしむべし。金は羽より重しとは、豈に一鈞の金と一輿の羽との謂を謂はんや。食の重きものと禮の輕きものとを取りて之れを比せば、なんぞたゞに食重きのみならんや。色の重きものと禮の輕きものとを取りて之れを比せば、なんぞただに色、重きのみ

ならんや。往きて之れに應へて曰へ、兄の臂を糝る。らして之れが食を奪へば則ち食を得、糝らざれば則ち食を得ず。則ち將に之れを糝らさんとするか。東家の牆を踰えて其の處子女をひけば則ち妻を得。ひかざれば則ち妻を得ず。則ち之れをひかんとするか。

曹交の弟 問うて曰く、人皆な以て堯舜たるべしと。これありや。孟子曰く、然り、交聞く、文王は十尺、湯は九尺と。今、交は九尺四寸、以て長し、粟を食ふのみ。如何にせば則ち可ならんか。孟子曰く、なんぞ是れにあらんや。亦た之れを爲さんのみ。此に人あり、力一匹の雛に勝ふこと能はざれば則ち力なき人と爲さん。今、百鈞を擧ぐると曰はば、則ち力ある人となさん。然らば則ち鳥獲の力の任業を擧げば是れ亦た鳥獲たるのみ。夫れ人豈に勝へざるを以て患となさんや、爲さざるのみ。徐行して長者に後る。之れを弟と謂ふ。疾行して長者に先だつ。

之れを不弟と謂ふ。夫れ徐行は豈に人の能はざる所ならんや。爲さざるがためなり。堯舜の道は孝弟のみ。子、堯の服を服し、堯の言を誦し、堯の行を行はば是れ堯たらんのみ。子、桀の服を服し、桀の言を誦し、桀の行を行はば是れ桀たらんのみ。曰く、交、交みづ、鄒の君に見ゆるを得て以て館を假るべし。願くば留まりて業を門に受けん。孟子曰く、其れ道は大路の若く然り、豈に知り難からんや。人の求めざることを病ふるのみ。子、歸りて之れを求めば餘師あらん。

公孫丑問うて曰く、高子なるもの曰ふ、小辨周の幽王褒姒を寵し申后をしりぞけ其の子、ぶは小人の詩なりと。孟子曰く、何を以てか之れを言ふ。曰く怨みたり。孟子曰く固なるかな、高叟高子の詩ををさむるや。此に人あり、越人何等關係な弓をひきて之れを射んとせば則ち己れ談笑して之れを道はん。他なし、之れを疏んずれば

なり。其の兄自身の兄弓をひきて之れを射んとせば則ち己れ涕泣を垂れて之れを道止はん。他なし、之れを戚めばなり。小辨の怨むは、親を親むなり。親を親むは仁なり。固なるかな、高叟の詩を爲むるや。曰く、凱風七人の子ある母が他に嫁さうとは何をを以てか怨みざる。子曰く、凱風は親の過小なる者なり。小辨は親の過大なる者なり。親の過大にして怨みざるは是れ愈疏んするなり。親の過小にして怨むは是れ礮すべからざるなり。感情を激愈々疏んするは不孝なり。礮すべからざるも亦た不孝なり。孔子曰く、舜は其れ至孝なるかな五十にして慕ふと。

宋程孟子孟子より年長の人將に楚に之かんとす。孟子、石丘に遇へり。孟子曰く、先生將に何くに之かんとするか。宋程曰く、吾れ聞く、秦楚、兵を構ふと。我れ將に楚王を見、説きて之れを罷めしめんとす。楚王悦ばざれば、我れ將に秦王を見、説きて之れを罷めしめんとす。二王我れ將に遇ふ所あらんとすと。孟子曰く、軻

や請ふ其の詳かなるを問ふことなからん。願くば其の指要を聞かん。之れを説くこと將に如何せんとするや。曰く、我れ將に其の不利なるを言はんとすと。曰く、先生の志は則ち大なり。先生の號論は則ち不可なり。先生、利を以て秦楚の王に説き、秦楚の王、利を悦びて三軍の師を罷めば、是れ三軍の士罷むるを樂しみて利を悦ぶなり。人の臣たるもの利を懐きて以て其の君に事へ、人の子たるもの利を懐いて以て其の父に事へ、人の弟たるもの利を懐きて其の兄に事ふ。是れ君臣父子兄弟終に仁義を去り、利を懐いて以て相接す。然り而して亡びざるものは未だ之れ有らざるなり。先生仁義を以て秦楚の王に説き、秦楚の王、仁義を悦びて三軍の師を罷めば、是れ三軍の師、罷むるを樂しんで仁義を悦ぶなり。人の臣たるもの仁義を懐いて以て其の君に事へ、人の子たるもの仁義を懐いて以て其の父に事へ、人の弟たるもの仁義を懐いて以て其の兄に事ふ。是れ君臣父子

兄弟利を去り、仁義を懐いて以て相接するなり。然り而して王たらざるものは未だ之れあらざるなり。何んぞ必ずしも利を曰はん。

孟子、鄒に居る。季任弟任の爲めに處り守る。幣贈りを以て孟子交はる。孟子之れを受けて報返せず。平陸に處る。儲子相の相たり、幣を以て交はる。之れを受けて報せず。他日、鄒より任に之きて季子を見、平陸より齊に之きて儲子を見ず。屋廬子孟子を喜んで曰く、連、廬子間を得たり。問うて曰く、夫子、任に之きて季子を見たるに齊に之きて儲子を見ざるは其の相たるが爲めか。孟子曰く、非なり。書に曰く、享贈りに儀式多し、儀、物に及ばざれば贈り物と儀式不享と曰ふ。惟れ志を享に役用せずと。其の享を成さざるが爲めなり。屋廬子悦ぶ。或ひと之れを問ふ。屋廬子曰く、季子は留守役。鄒に之くを得ず、儲子は平陸に之くことを得るが故なり。

淳于髡曰く、名實功績を先きにするものは人の爲めにするなり。名實を後にするものは自ら爲めにするなり。夫子三卿の中ありて、名實未だ上下に加はらずして去る。仁者固より此の如きか。孟子曰く、下位に居て、賢を以て不肖に事へざる者は伯夷なり。五たび湯に就き、五たび桀に就く者は伊尹なり。汗君を悪ます小官を辭せざる者は柳下惠なり。三子道を同じうせざれども其の趨きは一なり。曰く、一とは何ぞや。曰く、仁なり。君子は亦た仁のみ。何ぞ必ずしも同じからざらん。

髡曰く、魯の穆公の時、公儀子相政をなす。子柳、子思、臣たり而して魯の削地なる、こと滋す甚し。是のごとくなるか、賢者の國に益なきこと。孟子曰く、虞は百里奚を用ゐずして亡び、秦の穆公は之れを用ゐて覇たり。賢を用ゐざれば則ち亡ぶ。削らるること何ぞ與かるを得べけん。

髡曰く、昔、王豹名の淇に處り、河西善く謳ひ、縣駒名の歌、高唐に處り、齊右善く歌ふ。華周、杞梁名に戰に死の妻、善く其の夫を哭して國俗を變ず。これを内に有すれば必ずこれを外に形はす。其の事を爲して其の功なきものは髡未だ嘗つて之れを見ざるなり。是の故に賢者なきなり。有らば則ち髡必ず之れを識らんと。孟子の無能を難んず、孟子曰く、孔子、魯の司寇大司法たり。用ゐられず。従ひて而して祭る。燔肉を難んずに至らず、會にして冕をぬがずして去る。知らざるものは以爲らく肉の爲めなりと。其の如るものは以爲らく禮なきが爲めなりと。乃ち孔子は、則ち微罪を以て去らんことを欲す。苟も君國の名を傷けて去ることを爲すを欲せず。君子の爲す所は衆人固より識るべからざるなり。

孟子曰く、五霸春秋時代諸侯の主なるもの五、は三王夏の禹、殷の湯、の罪人なり。今の諸侯は五霸の罪人なり。今の大夫は今の諸侯の罪人なり。三王の天子の諸侯に

適くを巡狩と曰ひ、諸侯の天子に朝するを述職と曰ふ。春は耕すを省みて足らざるを補ひ、秋は斂むるを省みて給らざるを助く。其の疆に入りて、土地辟らけ、田野治まり、老を養ひ、賢を尊び、俊傑、位にあれば則ち慶賞あり。慶するに地を以てす。其の疆に入りて、土地荒蕪し、老を遺て賢を失ひ、掎克聚斂の臣位にあれば則ち讓めあり。一たび朝せざれば則ち其の爵を貶し、再び朝せざれば則ち其の地を削り、三たび朝せざれば則ち六師之れを移つす。是の故に天子は討命を諸侯に下してじて伐せず、諸侯は伐天子の命を奉じてして討せず。五霸は諸侯を搜きて以て諸侯を伐つ者なり。故に曰く、五霸は三王の罪人なり。

五霸は齊桓公を盛んなりとす。葵丘周の襄王元年桓公の會に諸侯性を束ね、書誓を載せて、血をすすする。盟儀の初命に曰く、不孝を誅し、樹子子嗣を易ふることなかれ、妾を以て妻となすことなかれ、再命に曰く、賢を尊び、才を育ひ、以て有

徳を彰せ。三命に曰く、老を敬ひ、幼を慈みて、賓旅賓客を忘るることなかれ。四命に曰く、士は官を世々にすることなかれ。官の事は攝官を兼するなかれ。士を取ることを必ず得よ、専まゝに大夫を殺すことなかれ。五命に曰く、防堤を曲ぐることなかれ。治水の爲、糴を遏むることなかれ。穀物の輸出を止めて有無相通封することありて、告げざることなかれ。曰く、凡そ我が同盟の人既に盟ふの後、言、好に歸せよと。今の諸侯は皆な此の五禁を犯せり。故に曰く、今の諸侯は五覇の罪人なりと。

君の悪を長ずるは其の罪なほ小なり。君の悪を逢ふるものは其の罪甚大なり。今の大夫は皆な君の悪を逢ふ。故に曰く、今の大夫は今の諸侯の罪人なりと。魯、慎子をして將軍たらしめんと欲す。孟子曰く、民を教へずして之れを用ひる、之れを民を殃すと謂ふ。民を殃する者は堯舜の世に容れられず。一たび

戦うて齊に勝ち、遂に南陽地齊のを有つも然かも且つ不可なりと。慎子悦ばずして曰く、此れ則ち滑釐の字の識らざる所なり。孟子曰く、吾れ明かに子に告げん。天子の地、方千里、千里ならざれば以て諸侯を待つに足らず。諸侯の地、方百里、百里ならざれば以て宗廟の典籍を守るに足らず。周公の魯に封せらるるや、方百里たり。地足らざるにあらず、而して百里に儉まる。大公の齊に封せらるるや、亦だ方百里たり。地足らざるに非ざるなり、而して百里に儉まる。今、魯、方百里の者五つ。子以爲らく思ふ王者作ることあらば則ち魯は損する所あるか、はた益する所あるか。徒らに諸れを彼れに取りて以て此れに與ふるすら然かも且つ仁者は爲さず。況んや人を殺して以て之れを求むるに於ておや。君子の君に事ふるや、務めて其の君を引いて以て道に當り、仁を志さしむるのみ。

孟子曰く、今の君に事ふる者は曰ふ、我れ能く君の爲めに土地を辟き府庫を充

さんご。今の所謂良臣は古の所謂民の賊なり。君、道にむかはず、仁に志さず、而るに之れを富ますんことを求む、是れ桀を富ますものなり。我れ能く君の爲めに與國を約し、戦へば必ず克たんと。今の所謂良臣は古の所謂民の賊なり。君、道にむかはず、仁に志さず、而るに之れが爲めに強戦せんことを求む、是れ桀を輔くるものなり。今の道に由りて、今の俗を變ずること無ければ、之れに天下を與ふと雖も、一朝も居ること能はざるなり。

白圭曰く、吾れ二十にして一を取らん周の地租は十分の一の定めなり之れと欲す、如何んと。孟子曰く、子の道は貉北方の道なり。萬室萬戸の國、一人陶器を造る。すれば則ち可ならんか。曰く、不可なり。器、用ゐるに足らざるなり。曰く、それ貉は五穀生せず。惟だ黍のみ之れに生ず。城廓、宮室、宗廟、祭祀の禮なく、諸侯、幣帛、養殮贈答なく、百官有司なし。故に二十にして一を取れば足れり。今、

中國に居り、人倫を去り。君子在官の人々なければ如何ぞそれ可ならんや。陶すら寡なき且つ以て國をおさむべからず。况んや君子なきをや。之れを堯舜の道より軽くせんと欲する者は大貉小貉なり。之れを堯舜の道より重くせんと欲する者は大桀小桀なり。

白圭曰く、丹白圭の名、圭自らを云ふ。の水を治むるや、禹より愈れり。孟子曰く、子過てり、禹の水を治むるは水の道なり。是の故に禹は四海を以て壑水の落となす。今、吾子は鄰國上流又は下流の國を以て壑となす。水の逆行する、之れを洚水水といふ。洚水は洪水なり。仁人の惡む所なり。吾子過てり。

孟子曰く、君子亮ならざれば惡んか執らん。魯、樂正子をして政を爲さしめんと欲す。孟子曰く、吾れ之れを聞き、喜んで寝ねられずと。公孫丑曰く、樂正子は強か。曰く、否な。知慮あるか。曰く、

否いなな。聞き識し多おほきか。曰いはく、否いなな。然しからば則すなはち、なん爲なれぞ喜よろこびて寝いねられざる。曰いはく、其そのの人ひととなりや、善ぜんを好このむ。善ぜんを好このめば足たるか。曰いはく、善ぜんを好このめば天下てんに優いなり。而しかるを況いはんや魯ろ國こくをや。夫それ苟いも善ぜんを好このめば則すなはち四海かいの内うち皆みな千里せんを輕かろしどして、來きたつて之これに告つぐるに善ぜんを以もつてせんぞす。夫それ苟いも善ぜんを好このまざれば則すなはち人ひと、將まさに曰いははんぞす。詭い々い 慢まん心しん不ふとして予われ既すでに已すでに之これを知しるといふ。ど。詭い々いの聲せい音おん顔がん色しよく、人ひとを千里せんの外ほかに距きよむ。士し、千里せんの外ほかに止とどまらば、則すなはち諂ぜん諂ぜん、面めん諛ゆ、わらたくみ、人ひとに至いたらん。諂ぜん諂ぜん、面めん諛ゆ、人ひとと居をらば、國くに治おさまるを欲ほつするも得うべけんや。

陳ちん子し曰いはく、古いにしへの君子くんし何いかなれば則すなはち仕つかふ。孟まう子し曰いはく、就つく所ところ三さんつ。去さる所ところ三さんつ。之これを迎むかふるに敬けいを致いたして、以もつて禮れいあり、將まさに其そのの言げんを行おこなはんぞすと言いはゞ。則すなはち之これに就つく。禮れい貌ぼう、未いまだ衰おさへざるも、言げん、行おこなはれざれば則すなはち之これを去さる。其そのの次つぎは、未いまだ其そのの言げんを行おこなはずと雖いへも之これを迎むかふるに敬けいを致いたし、以もつて禮れいあれば則すなはち之これに就つく。禮れい貌ぼう、衰おさふれば則すなはち之これを去さる。其そのの下げは、朝あしたに食くらはず、夕ゆふべに食くらはず、飢うへして門もん戸こを出いづる能あたはず。君きみ之これを聞きいて曰いはく、吾われ大だいにしては其そのの道みちを行おこなふ能あたはず。又また其そのの言げんに従したがふ能あたはず。たゞ我わが土ち地に飢うへせしむるは、吾われ之これを恥はづとて、之これを周すくはゞ亦また受うくべきなり。死しを免まぬか、のみ。

孟まう子し曰いはく、舜しゆんは畎けん之中うちに發はつし、傅ふ說えつして刑けい徒たと共ともに水みづ道みち工こう事じをなす。版はん築ちく工こうの間あひだに舉あげられ、膠かう鬲かくは紂ちゆうを逃のがれて魚ぎよ鹽えんを賣うる、魚ぎよ鹽えんの中うちに舉あげられ、管くわん夷い吾わして囚こさなり、齊せいの桓くわん公こう之これは士しに舉あげられ、孫そん叔しゆく敖がう隠いんれて海うみ濱べんに居をる、楚そのは海うみに舉あげられ、百ひやく里り奚けいに拔は擢たつす。は士しに舉あげられ、市いちに舉あげらる。故ゆゑに天てんの將まさに大たい任にんを是この人に降くださんとするや、必かならず其そのの心しん志しを苦くるしめ、其そのの筋きん骨こつを勞らうし、其そのの體たい膚ふを餓うやし、其そのの身みを空くう乏はうにし、行おこなひ其そのの爲なす所ところに拂ふつ亂らんがふす。心こころを動うごかし、性せいを忍しのび、其そのの能よくせ

ざる所を増益する所以なり。人つねに過ちて然る後に能く改む。心に困しみ、慮ひに衡してゆきつゝ而る後に作る。色に徴し、聲に發して而る後に喩る。入りては則ち法家、拂士譜代の臣なく、輔弼の士なく、出ては則ち敵國外患なき者は國つねに亡ぶ。然して後に知る憂患に生きて安樂に死することを。

孟子曰く、教も亦た術多し。予が之れを屑しとして教誨せざる者、是れ亦た之れを教誨するのみ。

盡心章句の上

孟子曰く、其の心を盡くす者は其の性を知る。其の性を知れば則ち天命を知る。其の心を存し、其の性を養ふは、天に事ふる所以なり。夭壽短命貳がはず。身を脩めて以て之れを俟つは命を立つる所以なり。

孟子曰く、命天命に非ざることなきなり。順ひて其の正を受く。是の故に命を知る者は巖牆危岩の下に立たず。其の道を盡くして死する者は正命なり。桎梏束縛して死する者は正命に非ざるなり。

孟子曰く、天爵なるものは求むれば則ち之れを得、捨つれば則ち之れを失ふ。是れ求めて得るに益あるなり。求むるもの我れに在るがゆゑなり。

孟子曰く、萬物皆な我れに備はる。身に反りみて誠なれば樂これより大なるは

なし。強恕きやうじよて人に及ぼすことおこなして行ふ、仁じんを求むることこれより近きはなし。

孟子曰く、之れを行ひて著いちじよしからず、習うて察せず、終身之れに由りて其道を知らざる者衆し。

孟子曰く、人、以て恥づることなかるべからず。恥なきを之れ恥づれば恥づることなし。

孟子曰く、恥の人ひとに於けるや大なり。機變の巧かうを爲す者もの人を陥おとしを以ては恥を用ゐる所なし。人に若かざるを恥ぢざれば、何んの人に若くことかあらんや。

孟子曰く、古の賢王は善を好みて勢いきほひ自己のを忘る。心こころにさいにしへを忘る。古の賢士は何んぞ獨り然らざらん。其の道みちを樂んで人の勢いきほひを忘る。故に王公も敬を致し禮を盡さざれば則ちしばらく之れを見ることを得ず。見ることすら且つ猶ほしばらくすることを得ず。而るを况んや得て之れを臣とするをや。

孟子、宋句踐さうこうせん論客論客のに謂つて曰く、子、遊いう遊をを好むか。吾れ子に遊いうを語らん。人

之れを知れども囂々がうがう、自得じとくして求もとむるなき人、知らざれども囂々たれ。曰く、如何にせば斯

れ以て囂々たるべきか。曰く、徳とくを尊たつとび、義ぎを樂たのしめば則ち以て囂々たるべし。

故に士は窮して義を失はず、達たつ富貴ふきして道みちを離れず。窮して義を失はず、故に士、己れを得う。操守そうしゆを全ぜんうす、達して道みちを離れず、故に民、望のぞみを失はず。古の人、志こころざしを得れば澤たく、民たみに加はり、志こころざしを得ざれば身みを脩おさめて世よに見あらはる。窮すれば則ち獨り

其の身を善くし、達すれば則ち兼かねて天下てんかを善くす。

孟子曰く、文王ぶんわうを待つて後に興おこる者は凡民はんみんなり。夫の豪傑かうけつの士しの若ごときは、文王ぶんわうなしと雖も猶ほ興おこる。

孟子曰く、佚道安樂を得せを以て民を使へば、勞すと雖も怨みず。生道人民保を以て民を殺せば、死すと雖も殺す者を怨まず。

孟子曰く、覇者の民は驩虞如歡びの内にも不安ある貌たり。王者の民は皞々如たりゆつたりとした貌。之れを殺して怨みず、之れを利便利をして庸功功と同じとせず、民、日に善に遷りて之れを爲す者知らず。自然に善に遷り行くの意、夫れ君子の過ぐる所は化し、善化存する所は神無垢清浄なり。上下は天地と流を同じうす。豈に之れを小補すと曰はんや。

孟子曰く、仁言仁の言説は仁聲仁の聲望のに入ること深きに如かず。善政法律は善教は民の財を得、善教は民の心を得。

孟子曰く、人の學ばずして能くする所の者は其の良能自然の才能なり。慮らずして知る所の者は其の良知本来の才智なり。孩提孩提ひざ子の童も其の親を愛することを知ら

ざることなし。其の長ずるに及びてや、其の兄を敬することを知らざることなし。親を親むは仁なり。長を敬するは義なり。他なし之れを此の心を天下に達するなり。

孟子曰く、舜の深山の中に居りて、木石と居り、鹿豕と遊びしとき、其の深山の野人と異なる所以は幾んど希なり。其の一善言を聞き、一善行を見るに及びて、江河を決して沛然たるが若し、之れを能く禦むることなきなり。

孟子曰く、其の爲すべからざる所を爲すことなく、其の欲すべからざる所を欲することなかれ人たるの道。此の如くなるのみ。

孟子曰く、人の徳慧、術知聰明、ある者恒に疾疾艱難の中に存す。獨り孤臣孽子孤不遇の其の心を操るや危く、小心注意を意らぬ其の思を慮ること深し。故に達す。

孟子曰く、君に事ふる人なる者あり。是れ君に事ふるや則ち容悦取り入るを爲す者なり。社稷を安んずるの臣なる者あり。社稷を安んずるを以て悦びを爲す者な

り。天民なるものあり。達すれば天下に行ふべくして而る後に之れを行ふ者なり。大人なる者あり。己を正しうして物正しき者なり。

孟子曰く、君子に三樂あり。而して天下に王たるは與かり存せず。其の内に父母俱に存し、兄弟故事なきは一樂なり。仰いで天に愧ぢず、俯して人に忤ぢざるは二樂なり。天下の英才を得て之れを教育するは三樂なり。君子に三樂あり。而して天下に王たるは與り存せず。

孟子曰く、廣土、衆民は君子之れを欲す。しかれども樂しむ所はこゝに存せず。天下に中して立ち、四海の民を定むるは君子之れを樂しむ。しかれども性本とする所はこゝに存せず。君子の性とする所は、大に行ふと雖も加へず、窮居すと雖も損せず、分、定まるが故なり。君子の性とする所は仁義禮智、心に根ざす。其の色に生ずるや、睟然みつる貌として面に見はれ背にあふれ四體に施き、四

體言はずして諭る。

孟子曰く、伯夷、紂を避けて北海の濱に居り、文王作興すと聞いて曰く、なんぞ歸せざる。吾れ聞く西伯の名は善く老を養ふ者也。太公、紂を避けて東海の濱に居り、文王作興すと聞いて曰く、なんぞ歸せざる。吾れ聞く西伯は善く老を養ふ者也。天下に善く老を養ふ者あれば則ち仁人にて己れの歸となす。五畝の宅、牆下に樹うるに桑を以てし、匹婦之れに蠶せば則ち老者は以て帛を衣るに足れり。五母の雞、二母の彘、其の時を失ふことなければ、老者は以て肉を失ふに足れり。百畝の田、匹夫之れを耕せば、八口の家以て飢うることなきに足れり。謂ゆる西伯善く老を養ふとは其の田里を制し、之れに樹畜を教へ、其の妻子を導きて其の老を養はしむ。五十は帛に非ざれば煖かならず、七十は肉にあらざれば飽かず。煖かならず、飽かず、之れを凍餒と謂ふ。文王の民、凍餒の老なし

とは此れ之の謂なり。

孟子曰く、其の田疇を易め、其の税斂を薄うせば民は富ましむべきなり。之れを食ふに時を以てし、之れを用ゐるに禮を以てせば財、勝げて用ゆべからざるなり。用ゐ盡 民、水火にあらざれば生活せず。昏暮に人の門戸を叩いて水火を求むるに、與へざるものなし。至りて足ればなり。聖人の天下を治むる菽粟豆、あること水火の如くならしむ。菽粟、水火の如くにして、民いづくんぞ不仁なる者あらんや。

孟子曰く、孔子東山に登りて魯を小とし、太山に登りて天下を小とす。故に海を觀る者は、水を爲し難く、海の大を見ては江河 聖人の門に遊ぶものは言を爲し難し。群小の言に耳を 水を觀るに術あり。必ず其の瀾大を見る。日月、明あり、容光必ず照らす。流水の物たるや、科に盈たざれば行かず。而かも積んで 君子の道に

志すや、章、光彩をなさざれば達せず。

孟子曰く、雞鳴きて起き、華々止めてとして善を爲す者は舜の徒なり。雞鳴きて起き、華々として利を爲す者は跖の徒なり。舜と跖との分を知らんと欲せば他なし。利と善との間なり。孟子曰く、楊子楊は我が爲めにすること利己を取る、一毛も抜きて天下を利すること爲さざるなり。墨子墨は兼ね愛す無差別平等の 頂を摩して踵にいたるも頭の尖から足の先きま 天下を利することは之れを爲す。子莫賢人は中の間を執る、中を執るは之れに 聖道に近しと爲す。中を執りて權ことなきは順應する事一を執る一方にがごとし。一を執ることを惡む所の者は、其の道を賊ふが爲めなり。一を擧げて百を廢すればなり。

孟子曰く、飢ゑたる者は食を甘んじ、渴する者は飲を甘んず。是れ未だ飲食の正を得ざるなり。飢渴之れを害すればなり。豈に惟だ口腹にのみ飢渴の害あらん

や。人心も亦た皆なこの害あり。人、能く飢渴の害を以て心の害と爲すことなれば則ち人に及ばざるは憂となさざるなり。孟子曰く、柳下惠は三公高無上のを以てしても其の介操を易へず。

孟子曰く、爲すことあるものは辟へば井を掘るがごとし。井を掘ること九仞にして而かも泉に及ばざれば猶ほ井を棄てんと爲すか。

孟子曰く、堯舜は之れを仁義の性とするなり。湯武は之れを身とするなり。五覇は之れを假るなり。久しく假りて歸さず、いづくんぞ其の有にあらざるを知らんや。

公孫丑曰く、伊尹殷の湯王死して嗣子太甲立つ、愼みなし、伊尹之れを桐宮におく、其の改たむるに及びて再び之れを迎ふ曰く、予れ不順に狎れしめすと、太甲を桐に放つ。民大に悦ぶ。太甲賢にして又た之れを反者。民大に悦ぶ。賢者の人臣たるや、其の君不賢ならば則ち固より放つべきか。孟子

曰く、伊尹の志あらば則ち可なり。伊尹の志なくば則ちこれ寡ふなり。公孫丑曰く、詩に曰く、素餐功なくして禄を食む事せずと。君子の耕さずして食ふは何ぞや。孟子曰く君子の是の國に居るや、其の君之れを用ゐれば則ち安富、尊榮なり。其の子弟之れに従へば則ち孝弟忠信なり。素餐せざることを、孰れか是れより大ならん。

王子塾齊の問うて曰く、士は何をか事とする。孟子曰く、志を尙高うす。曰く、何をか志を尙うすと謂ふや。曰く、仁義のみ。一の罪なきものを刑するは仁に非ざるなり。其の有に非ずして之れを取るは義に非ざるなり。居いづくにか在る。義是れなり。仁に居り、義に由る大人の事、備はれり。

孟子曰く、仲子陳仲子は、義にあらすして之れに齊國を興ふるも受けざらん。人、皆な之れの賢仲子を信ず。吾れよりして之れを見れば、是れ簞食豆羹を舍くの取らぬ義なり。人、親

戚、君臣、上下、亡きより罪其の大なるはなし。仲子其の母を避けて、君の縁を食まず之れを不義の大なる者となす 其の

小なるものを以て、其の大なるものを信せば、なんすれぞ可ならんや。

桃應孟子問うて曰く、舜、天子たり、皋陶、士長官たり、もし瞽瞍、人を殺

さば假定的 則ち之れを如何せんやと。孟子曰く、之れを執へんのみ。然るときは

則ち舜これを禁せざらんか。曰く、夫れ舜いづくんぞ得て之れを禁せん。夫れ法

は之れを受くる所あればなり。然らば則ち舜之れを如何にせん。曰く、舜、天

下を棄つるを視ること猶ほ傲破れ 蹴草履 を棄つるがごとし。竊自ら に負ひ逃れて、海

濱したが に處り、身を終るまで欣然として樂しみて天下を忘れんか。

孟子范 齊の より齊都 のに之き、齊王の子を望み見て喟然として歎じて曰く、居

は氣を移し、養は體を移す。大なるかな居や。夫れ盡く人の子に非ずや。

孟子曰く、王子の宮室、車馬、衣服多く人と同じ、而して王子彼れが若きは品

氣高 其の居之れをして然らしむるなり。況んや天下の廣居を に居る者をや。

魯の君、宋に之き、涇澤の門宋の 城門に呼ぶ。守る者曰く、此れ吾が君に非ざるな

り。何んぞ其の聲の我が君に似たるやと。此れ他なし、居相似たればなり。

孟子曰く、食うて愛せざるは之れを豕交つかひ するなり。愛して敬せざるは之

れを獸畜あつかひ するなり。恭敬は幣古は賢者を迎ふる の未だ將はざるものなり。恭敬

して實なければ君子は虚しく拘むべからず。

孟子曰く、形色形體 は天性なり。而かも多くは惟だ聖人にして然る後、以て形を

踐むべし。

齊の宣王、喪の喪を短うせんと欲す。公孫丑曰く、期一ケ の喪をなすは猶ほ已

むに愈るか。孟子曰く、是れ猶ほ其の兄の臂を疹れ ける。あらすものあり、子之れに

謂つて姑らく徐々にせよと云ふがごとし。亦た之れに孝弟を教へんのみ。

王子其の母死するものあり。其の傳つき之れが爲めに數月の喪を請ふ。生母に
て王の妾なり、王の正妻にあらす故に喪なし、而るに其の喪に服して情を盡さんことを請ふ。公孫丑曰く、此のごとき者は如何ぞや。曰く、是れ之れを終へんと欲して得べからざるなり。一日を加ふと雖も已むに愈れり。夫の之れを禁ずることなくして爲さざる者と同じからずと謂ふなり。

孟子曰く、君子の教ふる所以のもの五、時雨の之れを化せしむるが如き者あり。季節々々の雨の草木の萌芽を徳を成さしむる者あり。材才能のを達せしむる者あり。問化育せしむるがごときを云ふ。私かに淑艾其の門に入りて教を受くることを得ざるものは獨學自習にせしむる者あり。此の五つの者は君子の教ふる所以なり。

公孫丑曰く、道は則ち高し、美しく。宜しく天に登るが如く然り。及ぶべからざるに似たり。何んぞ彼れをして幾及近づくすべからしめて日に孳孳怠らすつせしめざる。孟子曰く、大匠は拙工の爲めに繩墨を改廢せず。羿射射の名人の爲めに

設率弓を張る形式を變せず。君子は引きて發たず、躍如たり、弓にたさへて引くまでを教へ發して當るは學ぶ者のつとむべき所、たゞ妙所に的中した踴躍たる心中道にして立つ。能者之れに従ふ。持は充分に顯はしおくべしとの意。

孟子曰く、天下道あれば道を以て身に殉す。天下道なければ身を以て道に殉す。未だ道を以て人に殉するものを聞かざるなり。

公都子曰く、滕更滕君の弟の門にあるや、孟子の門に入禮する所あるべきがごとし。而かも夫子答へざるは何ぞや。孟子曰く、貴きを挾みて問ひ、賢を挾みて問ひ、長を挾みて問ひ、勳勞あるを挾みて問ひ、故舊知を挾みて問ふは皆な答へざる所なり。滕更此の二あり。

孟子曰く、已むべからざるに於て、已む者は已めざる所なし。厚うすべき所に於て薄うするものは、薄うせざる所なし。其の進むこと鋭きものは、其の退くと速かなり。

孟子曰く、君子の物禽獸草木に於けるや、之れを愛して仁せず。民に於けるや、之れを仁して親狎れします。親を親みて民に仁し、民に仁して物を愛す。

孟子曰く、智者は知らざるなきなり。當に務むべきを之れ急となす。仁者は愛せざるなきなり。賢を親むを急にすることを之れ務となす。堯舜の知にして物に偏からざるは先務を急にすればなり。

三年の喪父母の喪最も重しを能くせずして總三月小功五月の喪を之れ察し。放飯流歎飯粒をこぼす、すすりこむ、して齒決なきを問ふ。齒で喰ひ切らず手で肉をさくを、さかめる。是れ之れを務めを知らずと謂ふ。

盡心章句の下

孟子曰く、不仁なるかな、梁の惠王や。仁者は其の愛する所を以て其の愛せざる所に及ぼし、不仁者は其の愛せざる所を以て其の愛する所に及ぼす。公孫丑曰く、何の謂ぞや。曰く、梁の惠王は土地の故他國を侵略せを以て其の民を糜爛骨肉粉砕して之れを戦はせ大いに敗る。將に之れを復せんとして勝つ能はざるを恐る。故に其の愛する所の子弟を驅りて以て之れに殉せしむ。是れ之れを其の愛せざる所を以て愛する所に及ぼすと謂ふなり。

孟子曰く、春秋に義戰なし。彼れ是れより善きは則ち之れあり。征とは上にして下を伐つなり敵國は相征せず。互に侵略を之れ事とするを云ふ孟子曰く、盡く書を信ずるは書なきに如かず。吾れ武成書經中の一節、武王紂を伐つて歸る時のことを記した

るもに於て二三策古は文字を竹簡に取るのみ。仁人は天下に敵なし。至仁を以て至不仁を伐つ。而るに何んぞ其の血の杵具戦はずして屈せしめたもので流血の惨はあるべき道理なしとの意を流さん。孟子曰く、人あり、我れ善く陣軍をなし、我れ善く戦を爲すと曰ふは大なる罪なり。國君仁を好めば天下に敵なし。南面して征すれば北狄怨み、東面して征すれば西夷怨む。曰く、なんすれぞ我れを後にする。武王の殷を伐つや、革車兵三百輛、虎賁騎射兵三千人、王曰く、畏るゝこと無かれ。爾を寧んせんとするなり、百姓を敵とするに非ざるなりと。民崩るゝがごとく角を厥して額を地に稽首す。征の言たる正なり。各々己れを正しくせんを欲するなり。いづくんぞ戦を用ゐん。

孟子曰く、梓匠木工輪輿車は能く人に規矩を與ふるも、人をして巧みならしむること能はず。巧拙は習ふ者の務め如何に由る孟子曰く、舜の糗飯糗飯を飯ひ、草蔬を茹ふや、將に賤

て身を終へんとするが若し。其の天子となるに及びて袵衣重きたる衣裳を被むり、琴を鼓し二女娥皇の二女果る。固より之れを有するがごとし。

孟子曰く、吾れ今にして後、人の親を害ふの重きを知る。人の父を害へば人も亦た其の父を害なふ。人の兄を害へば人も亦た其の兄を害ふ。然らば則ち自ら之れを害ふに非ざるもたゞ一間のみ。

孟子曰く、古の關を爲るや將に以て暴を禦がんとす。今の關を爲くるや、將に暴を爲さんどす。

孟子曰く、身、道を行はざれば妻子にだも行はれず。人を使ふに道を以てせざれば事妻子にだも行はるること能はず。

孟子曰く、利此の利は金穀の貯蓄をいふに周き足り者は凶年凶年も殺すこと能はず。窮乏を免徳に周き者邪説の行はる世の中は邪世邪説の行はる世の中も亂すこと能はず。

孟子曰く、名なの不朽こくを好このむ人は能よく千乗せんじやうの國くにを讓ゆづる。苟いやくも其そのの人ひとに非あらざれば眞まこと名なを好このむも、簞食たんじき豆羹とうかうにもも興おこふるものものを色いろに見みはる。顔色げんしきを變かへずるする。孟子曰く、不仁ふじんにして國くにを得うる者ものは之これれあらん。不仁ふじんにして天下てんかを得うるは未いまだ之これれあらざるなり。

孟子曰く、民たみを貴たつとしとなし。社稷しゃしやく之これに次つぐ。是この故ゆゑに丘民きゆうみん。丘民きゆうみんは衆民しゆじんと同じ。井田けいでん十六を丘きゆうと言いふに得えられて天子てんしとなり、天子てんしに得えられて諸侯しよこうとなり、諸侯しよこうに得えられて大夫たいふとなる。諸侯しよこう社稷しゃしやくを危あやくすれば則すなはち變置へんちす。穡しやく牲せい既に成なり、黍しよ盛せい供くへ既に潔きよく、祭祀さいし、時ときを以もつてす。然しかり而しかうして旱乾かんかんついでり水溢すゐいつ水みづ溢あれば則すなはち社稷しゃしやくを祭まつつる祭壇さいだんのを變置へんちす。

孟子曰く、聖人せいじんは百世ひやくせいの師しなり。伯夷はくい、柳下惠りうかけい是これれなり。故ゆゑに伯夷はくいの風ふうを聞きく者ものは頑夫くわんぷも廉れんに、懦夫にだふも志こころざしを立たつることあり。柳下惠りうかけいの風ふうを聞きく者ものは薄夫はくふも敦あつ

く、鄙夫ひふも寛ゆたかなり。百世ひやくせいの上かみに奮ふるひて、百世ひやくせいの下しも、聞きく者もの、興起こうきせざるはなし。聖人せいじんにあらすして能よく是かくの如ごとくならんや。而しかるを況いはんや之これれに親炙しんしやく近ちかする者ものをや。

孟子曰く、仁じんとは人ひとなり。所以ゆゑにの理り合あせて之これを言いへば道みちなり。

孟子曰く、孔子こうしの魯ろを去さるや、曰いはく、遅々ちぢぢとして吾われ行ゆくと。父母ふぼの國くにを去さるの道みちなり。齊せいを去さるときは漸せきを接せつして洗せんひ米こめを炊かくの行ゆく。他國たこくを去さるの道みちなり。

孟子曰く、君子くんしの陳蔡ちんさいの間に厄やくくするは孔子こうし、陳蔡ちんさいの間に於おいて上下じやうがの交まじなればなり。上うへに能よく用もちゐるの君きみなく、下したに賢けんなす、むるの臣しんなきを云いふ。

貉稽はくけい曰く、稽けい、大おほいに口くちに理りならずたのもしと。孟子曰く、傷いたむなかれ。

士しますく、茲これ多た口こう色しきの批難ひなんなり。詩しに云いはく、憂心ゆうしん悄悄せうせう、群小ぐんせうに慍うらみらるとは、孔子こうしなり。肆つひにその慍うらをた、す、亦またたその聲聞せいもんをおとささずとは、文王ぶんわうなり。

孟子曰く、古賢者は其の昭々正しく、あを以て人をして昭々たらしむ。今は其の昏々しからぬ正を以て人をして昭々たらしめんとす。

孟子、高子に謂つて曰く、山徑の蹊間も介然ばらとして用ゆれば路を成す。間も用ゐざるを爲さば則ち茅之れを塞ぐ。今、茅、子の心を塞げり。

高子曰く、禹の聲樂は文王の聲に尙されりと。孟子曰く、何を以て之れを言ふや。曰く、追鐘を釣の蠶滅せるを以てなり。曰く、是れなんぞ之れを證足らんや。

城門の軌凹みたるは兩馬一車兩馬を駕すの力ならんや。禹の文王を去る千有余年即ち歳故に一車の事也。齊、饑ゆ陳臻曰く、國人皆な以へらく、夫子將に復た棠の在を發かし

めんとすと。孟子嘗て齊王に勸めてこの米倉を殆んど復すべからざるか。孟子曰く、是れ馮婦人の爲すところなり。晉人に馮婦なるものあり。善く虎を搏つ手に

卒に善士となる。後、力士をやめ、則ち野に之く。衆の大勢あり虎を逐ふ。虎、嶋を

負ふ。山のそばに身を、之れに敢て近づくものなし。たま憑婦を望み見て趨りて之れを迎ふ。馮婦もその地金臂を攘げて車を下る。衆、皆な之れを悦ぶ。而かも其の士たるものは之れを笑へり。今日再び齊王に説く所あるも必

孟子曰く、口の味に於ける、目の色に於ける、耳の聲に於ける、鼻の臭に於ける、四肢の安佚に於けるや、性持つて生れなれども命を超越せる天の使命あり。君子は性と謂はざるなり。性能さしての満足な仁の父子に於ける、義の君臣に於ける、

禮の賓主に於ける、智の賢者に於ける、聖人の天道に於けるや、命なれども性あり、君子は命と謂はざるなり。本性さして、ごこ迄も行

浩生不害人の問うて曰く、樂正子門人は何人ぞや。孟子曰く、善人なり、信人なり、何をか善と謂ひ、何をか信と謂ふ。曰く、欲すべき親之れを善と謂ひ、これを善己れに有つ之れを信と謂ひ、充實する之れを美と謂ひ、充實して光

輝ある之れを大と謂ひ、大にして之れを天下化育する之れを聖と謂ひ、聖にして之れを知るべからざる廣道として窺ひ知るべからざる之れを神と謂ふ。樂正子は二の中、四の下なり。

孟子曰く、墨墨子の學派を逃るれば必ず楊楊朱の學派に歸し、楊を逃るれば必ず儒孔孟の學に歸す。歸すれば斯に之れを受けんのみ。

今の楊墨と辯ずる者は放れたる豚を追ふが如し。既に其の豎豚小折角小屋に入れたものを再び縛り困める、即ち前非を改めて逃れしむる様に仕向けるなりに入るれば又た従うて之れを招なく。

孟子曰く、布縷の征、民の紡織したる布、糸を税として上納せしむる制度にして夏之れを取る粟米の征、秋之れを取る力役の征、農閑を見て冬之れを取るあり。君子は其の一を用ゐて、其の二を緩うす。其の二を用ゐりたてゐて民、殍餓死あり。其の三を用ゐて父子離る。

孟子曰く、諸侯の實は三、土地、人民、政事なり。珠玉を寶とする者は殃

必ず身に及ぶ。

盆成括盆成括名齊に仕ふ。孟子曰く、死なんかな盆成括と。果し盆成括殺さる。門人問ひて曰く、夫子何を以て其の將に殺されんとするを知れる。曰く、其の人となりや、少く才あり、未だ君子の大道を聞かず。則ち以て其の軀を殺すに足るのみ。

孟子、滕に之きて上宮公の館宿す。牖上窓の上に業履の草履の作りかけあり。館人之れを求めて得ず。見つか或るひと之れを問ひて曰く、是の如きか、從者の匿せるならん。曰く、子、是れ從者をくつ履を竊むが爲めに來ると以ふか。曰く、殆んど非なり。全くそうではない曰く、夫れ予れの科科を設くるや、往く者は追はず、來る者は拒まず。荷も是の心を以て至らば、斯に之れを受けんのみ。

孟子曰く、人、皆な忍びざる所あり。惻隱即おもひやりの心は人みな之れを自然に備へて居る之れを其の忍ぶ

所に達するは、然れども時に感情、利慾の爲めに思はず、知らず己れの欲せざる所を人に厭すことあり、か
 利慾の邪念を打ち消すの意、仁なり。人、皆な爲さざる所あり。之れを其の爲す所に達するは義なり。
 人能く人を害するを欲するなきの心を充たさば、仁勝げて用ゆべからざるなり。盡く仁なり。人、能く穿踰（壁を穿ち、垣をこゆること即ち）するなきの心を充たさば、義
 勝げて用ゆべからざるなり。人、能く爾汝（軽侮さる、をうくるなきの實を充たさば）往く所として義ならざるなきなり。士、未だ以て言ふべからずして言ふは多言、さ
 等。是れ言ふを以て之れを甜る（なめざる、人心をさらんなり）。以て言ふべくして言はざるは是れ言はざるを以て之れを甜るなり。是れ皆な穿踰の類なり。

孟子曰く、言、近うして旨、遠きは善言なり。守ること約にして簡施すこと博きは善道なり。君子の言や、帯を下らずして胸のう道存す。君子の守りは其の身を脩めて天下平らかなり。人、其の田を捨て、人の田を芸ざるを病む。人に求

むる所の者、重くして、自ら任ずる所以の者軽ければなり。

孟子曰く、堯舜は性のまゝなるものなり。湯武は之れに反するものなり。自身に反省して自ら安んず、動容周旋、禮に中るもの、立居振舞ひの行は盛徳の至なり。死を哭して哀しむは生者の爲めに非ざるなり。經徳（不斷の徳行）よこしまならざるは以て祿を于むるに非ざるなり。言語必ず信なるは以て行を正すに非ざるなり。君子は法即道を行ひて以て天命を俟つのみ。

孟子曰く、大人（當時の貴人）を説くには則ち之れを戒（びく）恐縮せさせよ。其の巍々然たるを視ること勿れ。殿堂の高大なるを、堂の高さ數仞（椽題）、數尺、我れ志を得るも爲さざるなり。食前方丈（珍膳山の如し）、侍妾數百人、我れ志を得るも爲さざるなり。般樂（樂にふ）して酒を飲み、驅騁田獵（漁獵にか）し。後車千乘、我れ志を得るも爲さざるなり。彼れに在る者は皆な我が爲さざる所なり。我れに在る者は皆な

古の制なり。我れ何んぞ彼れを畏れんや。

孟子曰く、心を養ふは寡欲より善きはなし。其の人となりや欲、寡なければ、存せざるものありと雖も寡なし。其の人となりや欲多ければ、存するものありと雖も寡なし。

曾皙の父羊棗めつを嗜む。曾子父死し羊棗を食ふに忍びず。公孫丑問うて曰く、膾炙やき肉と羊棗と孰れか美味なる。孟子曰く、膾炙なるかな。公孫丑曰く、然らば則ち曾子何んすれぞ膾炙を食ひて羊棗を食はざる。曾皙も膾炙を好み曰く、膾炙は萬人其の同じうする所なり。羊棗は獨りする所なり。名を諱みて古來長上の名を避姓を諱まず。姓は同じくする所なり。名は獨りする所なり。萬章問うて曰く、孔子陳に在るとき、曰く、なんぞ歸らざる。吾が黨の士門人の魯のなを狂簡大つかみなること進取、其の初を忘れず。初志をひるか孔子陳に在りて、

何んぞ魯の狂士を思へるか。

孟子曰く、孔子豈に中道を欲せざらんや。必ず得べからず、故に其の次之れにを思へるなり。

敢て問ふ、何如なる、斯に狂と謂ふべきか。曰く、琴張、曾皙、牧皮、共にの如きは孔子の謂ゆる狂なり。

何を以て之れを狂と謂ふ。曰く、其の志、嚶嚶然として、古の人、古の人と曰ふ。古の君子を以て自ら任ずる、夷かに其の行を考ふれば掩はざる者なり。其言行が理想にこそなぬは狂者も又た得べからず。不潔を屑しとせざるの士を得て之れと與にせんと欲す。是れ猶なり。是れ又た其の次なり。狂の次にあるを云ふ。

孔子曰く、我が門を過ぎて我が室に入らざるも我れ憾みざる者は其れ惟だ郷原賢者ぶかど。郷原は徳の賊なればなり。曰く、如何なる、斯に郷原と謂ふべき

か。曰く、何を以てか是れ膠々たるや、所謂狂なるもの、如く徒ら言、行を顧みず、
行、言を顧みず、則ち古の人、古の人と曰ふ。古の賢者、行、何んすれぞ躡
々涼々たる。一見、狷者の如くなれども、行、斯の世に生れて斯の世に善しと爲るれば斯
に可なりと。闒然、猫をかとして世に媚ぶるものは是れ郷原なり。

萬章曰く、一郷皆な原人、賢人と稱す、往く所として原人たらざることなし。
而る孔子以て徳の賊となすは何ぞや。曰く、流俗に同じ、汚世に合し、之れに居
ること忠信に似、之れを行ふこと廉潔に似、衆皆な之れを悦び、自らも以て是と
なして、而して與に堯舜の道に入るべからず。故に徳の賊といふなり。

孔子曰く、似て非なる者を惡む。莠、稂に似たる草を惡むは其の苗を亂すを恐れて
なり。佞、慧を惡むは其の義を亂すを恐れてなり。利口なるを惡むは其の信を
亂すを恐れてなり。鄭聲、淫を惡むは其の樂を亂すを恐れてなり。紫を惡むは其

の朱を亂すを恐れてなり。郷原を惡むは其の徳を亂すを恐れてなりと。君子は經
の常道に反らんのみ。經、正しければ則ち庶民興る。庶民興れば斯に邪慝よこしま
なるなし。

孟子曰く、堯舜より湯に至るまで五百有餘歳、禹、皐陶の若きは則ち見て親し
て之れを知り、湯の如きは則ち聞きて道なき之れを知る。湯より文王に至るまで
五百有餘歳、伊尹、萊朱の若きは則ち見て之れを知り。文王の若きは則ち聞きて
之れを知る。文王より孔子に至るまで五百有餘歳、太公望、散宜生の若きは則ち
見て之れを知り、孔子の若きは則ち聞きて之れを知る。孔子より來、今に至る
まで百有餘歳、聖人の世を去ること此の若く其れ未だ遠からざるなり。聖人の居
に近きこと此の如く其れ甚だしきなり。然り而して後世、斯の道を天下有るなきか。
則ち亦た有るなからんか。

國文孟子終り

大正十五年十一月二十四日印刷
大正十五年十一月二十八日發行

定價 金 壹 圓

版權
所有

著 作 者

三重縣度會郡田丸町大字佐田九百三十八番地
小林 政 太 郎

印 刷 者

濱松市元城町百七十三番地
中 村 修 二

印 刷 所

濱松市元城町百七十三番地
株式會社 開 明 堂

三重縣度會郡田丸町大字佐田千二番地

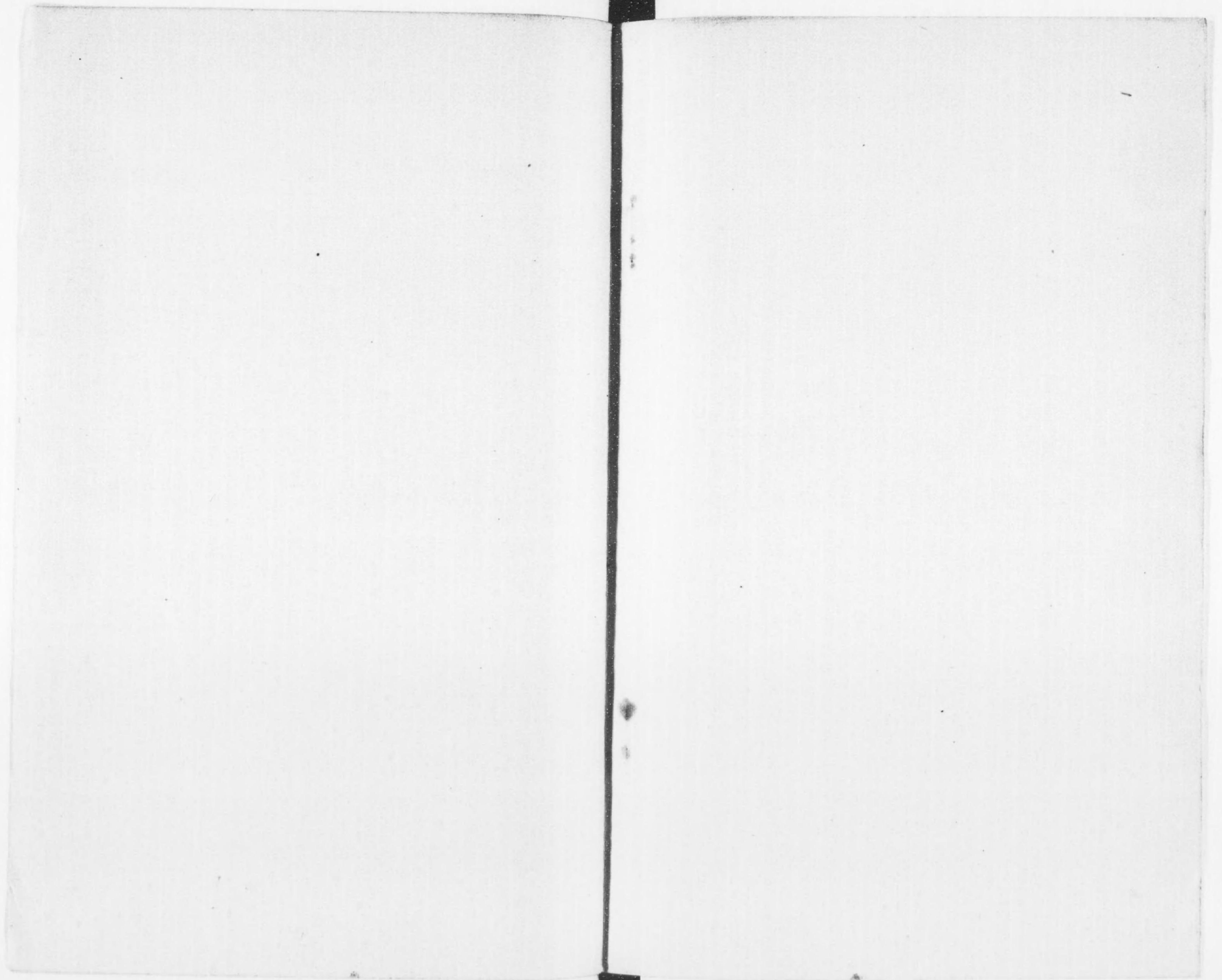
孔 子 廟

發 行 所
發 賣 所

三重縣度會郡田丸町

小林柔軟オブライト製造所

電話 一 番 (本宅用) 振替 東京 四 五 六 九 番
電話 二 番 (事務用) 口座 大阪 二 三 九 〇 番
電 略 (オ) 又 (ハ) オ プ (古 屋 三 八 二 一 番)



終